別冊

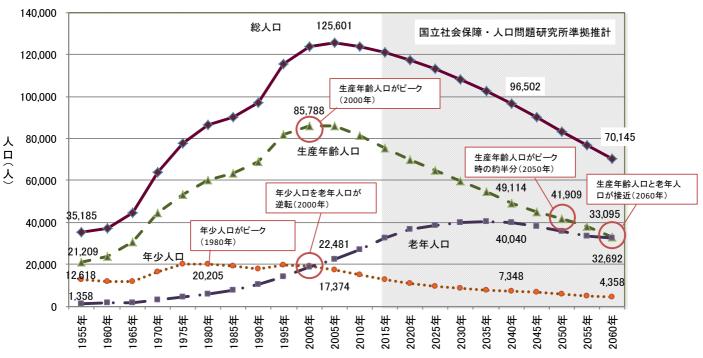
江別市人口ビジョン中間報告 【概要】

平成 27 年 7 月 27 日現在

江別市人口ビジョンは江別市における人口の現状を分析し、 今後、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです

I 人口の現状分析

総人口の推移について



図表1 江別市の総人口の推移(1955~2060年)

(出典) 2010 年までは国勢調査 (合併も考慮)、2015 年以降は「日本の地域別将来推計人口 (平成 25 (2013) 年 3 月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所) に準拠した推計

江別市の総人口は、国勢調査ベースで 2005 年 (平成 17 年) の 125,601 人をピークに減少傾向に入っています。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040 年 (平成 52 年) 時点で 96,502 人となり、ピーク時の約 76.8%まで減少すると推計されています。

2 高齢化率の推移について

図表2 比較対象自治体における高齢化率の変化

【2010年(国調)】

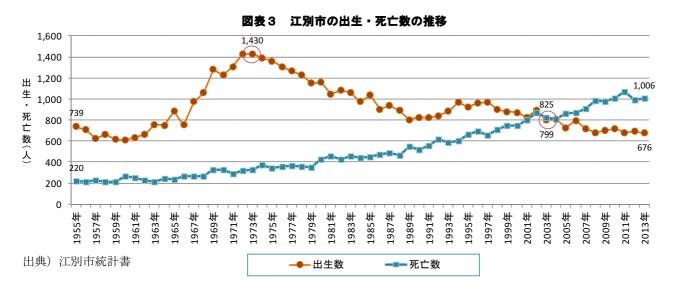
自治体名	高齢化率
栗山町	32.7%
岩見沢市	27.8%
北見市	25.4%
北海道	24.7%
石狩市	23.1%
北広島市	22.4%
江別市	21.8%
恵庭市	20.8%
札幌市	20.5%
千歳市	17.4%

【2040年(推計)】

自治体名	高齢化率	伸び率
栗山町	47.3%	44.6%
北広島市	44.0%	95.9%
北見市	43.5%	71.7%
岩見沢市	42.9%	54.6%
江別市	41.5%	90.1%
北海道	40.7%	65.2%
札幌市	39.9%	95.1%
石狩市	39.7%	71.5%
恵庭市	35.8%	72.3%
千歳市	31.5%	81.2%

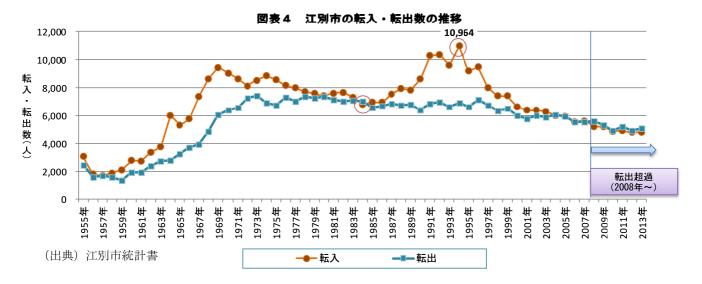
江別市の高齢化率は 2010 年(平成 22 年)では、全道平均(24.7%)よりも低い高齢化率(21.8%)を示しています。しかし、2040 年(平成 52 年)になると高齢化率が(41.5%)に上昇(伸び率 90.1%)し、北海道(40.7%)を上回る見込みです。比較対象とした自治体で同様に高齢化率の伸び率 90%を超える自治体は、札幌市、北広島市です。 3 市は共通して合計特殊出生率が 1.10 を下回る水準であり、出生率の低さにより高齢化率が影響するものと考えられます。

3 人口の自然増減(出生死亡)について



江別市の人口の自然増減については、出生数が 1973 年(昭和 48 年)にピークを迎え、 以降は減少傾向で推移しています。2002 年(平成 14 年)までは出生が死亡を上回る「自 然増」の状況だったが、それ以降は「自然減」に転じています。

4 人口の社会増減(転出・転入)



江別市の人口の社会増減について、転入数に関しては、大麻団地の造成に関係するもの(1960年代後半~1970年代前半)と、大規模土地区画整理事業に関係するもの(1988年~1990年代後半)の2つの山があり、転入のピークは1994年(平成6年)となっています。また、2008年(平成20年)からは転出入の均衡に近い水準ではあるものの、転出超過となる状況が続いています。

図表 5-1 江別市全体の転入者・転出者の総数 (2013) (人)

	転	入	転	出	差引
総数	4	1, 643		4, 90	6 △263

図表 5-2 札幌市からの転入者・札幌市への転出者 (2013) (人)

	転	入	転	出
総数	1,689	100.0%	2,202	100.0%
0~4歳	179	10.6%	80	3.6%
5~9歳	66	3.9%	46	2.1%
10~14歳	17	1.0%	25	1.1%
15~19歳	47	2.8%	94	4.3%
20~24歳	197	11.7%	470	21.3%
25~29歳	288	17.1%	430	19.5%
30~34歳	272	16.1%	258	11.7%
35~39歳	185	11.0%	185	8.4%
40~44歳	127	7.5%	124	5.6%
45~49歳	67	4.0%	89	4.0%
50~54歳	44	2.6%	63	2.9%
55~59歳	47	2.8%	74	3.4%
60~64歳	42	2.5%	69	3.1%
65~69歳	28	1.7%	41	1.9%
70~74歳	17	1.0%	25	1.1%
75~79歳	13	0.8%	34	1.5%
80~84歳	23	1.4%	52	2.4%
85~89歳	18	1.1%	26	1.2%
90歳以上	12	0.7%	17	0.8%

(出典) 住民基本台帳人口移動報告

近隣市町村との人口移動の状況 (2013年(平成25年))

近隣市町村との人口移動の状況をみると、札幌市からの転入者が 1,689 人、札幌市への転出が 2,202 人と、最も多くなっています。

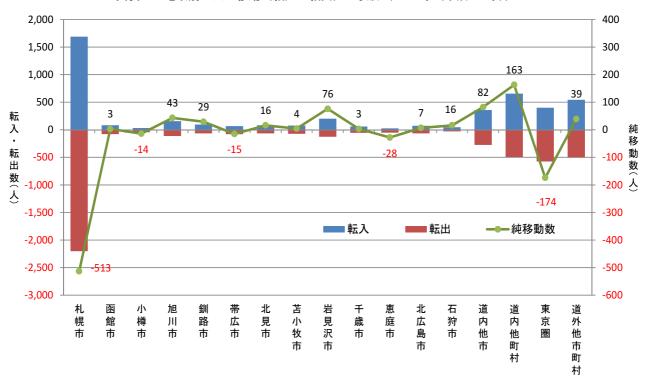
また、岩見沢市からの転入が203名、岩見沢市への転出が127名となっています。

転入・転出者ともに多い札幌市の状況を年齢別にみると、転入者では 25~29歳、30~34歳の割合が高く、転出者では 20~24歳、25~29歳の割合が高いことが分かります。

図表5-3他市町村との転入者・転出者(2013)(人)

	転入	転出	転入-転出
札幌市	1,689	2,202	-513
岩見沢市	203	127	76
千歳市	59	56	3
恵庭市	26	54	-28
北広島市	72	65	7
石狩市	47	31	16
当別町	54	12	42
新篠津村	20	10	10
南幌町	65	27	38
由仁町	6	5	1
長沼町	19	9	10
栗山町	19	14	5
月形町	4	4	0

5 地域別の人口移動(転入-転出)の状況

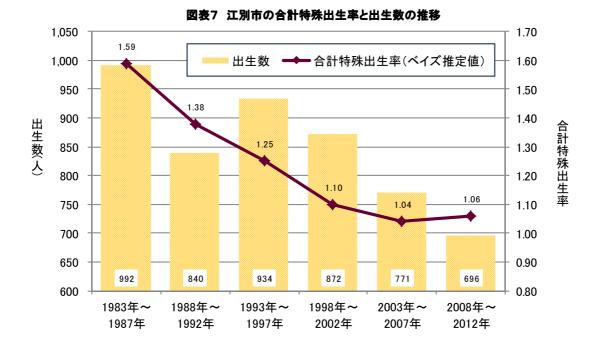


図表6 地域別の人口移動(転入一転出)の状況 (2013年 (平成25年))

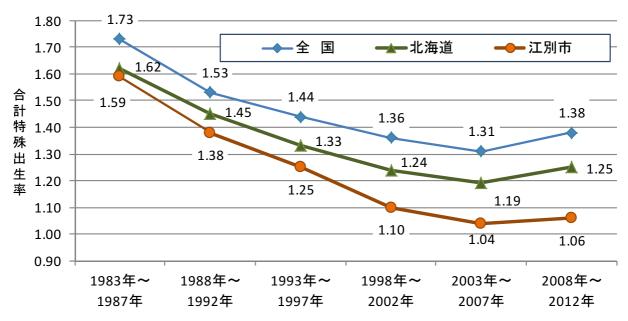
·東京圏:埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 (出典) 住民基本台帳移動報告(平成25年)

江別市は、札幌市と東京で転出超過となっています。その他の地域については、おおむね転入超過の 状況です。

6 合計特殊出生率と出生数の推移について



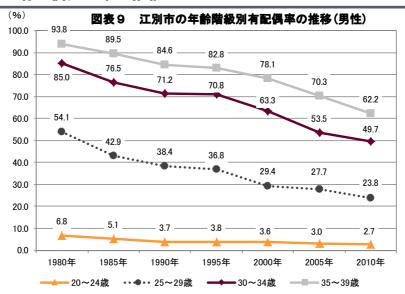
江別市の合計特殊出生率について、5年ごとの平均により推移を見ると、1983年~1987年の 1.59から低下が続き、2003年~2007年の 1.04を底に、2008年~2012年は 1.06に上昇しています。1.06という値は全国の 1.38、北海道の 1.25と比べて低い値となっています。また、出生率は上昇しているものの、出生数は 2003年~2007年の 771人から 696人へと減少しています。



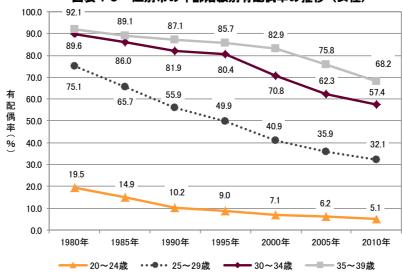
図表8 合計特殊出生率(ベイズ推定値)の比較(全国、北海道、江別市)

(出典) 人口動態保健所・市区町村別統計より作成

7 有配偶率・有配偶出生率の推移



図表10 江別市の年齢階級別有配偶率の推移(女性)



年齢階級別の有配偶率の推移をみると、1980年(昭和55年)と比べて男性も女性も各年代ともに大幅に低下しており、これは全国、北海道ともに同じ傾向にあります。また、減少幅が大きいのは、男性で30~34歳、女性で25~29歳です。

図表 1 1 年齢階級別の有配偶率の比較(全国、北海道、江別市)

(男性)

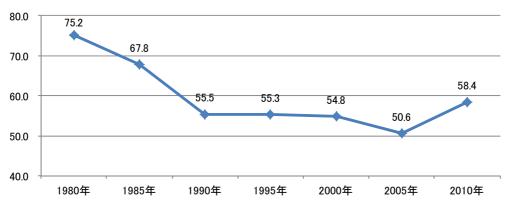
		全体	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳
全 国	1980年	67.6	0.3	8.1	44.1	77.0	89.4
全 国	2010年	59.9	0.3	5.5	26.2	49.0	59.4
北海道	1980年	69.7	0.5	11.9	53.4	81.8	91.1
北海坦	2010年	61.5	0.3	6.4	28.6	50.0	59.4
27 DJ +	1980年	65.9	0.4	6.8	54.1	85.0	93.8
江別市	2010年	60.3	0.3	2.7	23.8	49.6	62.1

(女性)

		全体	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳
全 国	1980年	64.0	0.9	21.9	74.5	88.0	90.2
土 国	2010年	55.9	0.6	9.3	36.2	59.7	68.6
北海道	1980年	65.0	1.4	25.4	73.2	86.5	89.2
1. 海坦	2010年	54.2	0.6	10.3	36.4	57.1	63.8
ᆂᄜᆂ	1980年	66.1	1.0	19.5	75.1	89.6	92.1
江別市	2010年	56.9	0.3	5.1	31.9	57.4	68.3

(出典) 国勢調査より作成

図表12 15~49歳の有配偶出生率(人口千対)の推移(江別市)



(出典) 国勢調査、人口動態保健所・市区町村別統計より作成

15~49歳の有配偶者に対しての出生数をみたところ(有配偶出生率*)、1980年(昭和55年)の75.2 から1990年(平成2年)には55.5と大幅に低下したが、1990年代はほぼ横ばい、2005年(平成17年)に50.6と底を打ち、2010年(平成22年)には若干回復し58.4となっています。

※有配偶出生率:出生数/各年の15歳~49歳の女性の有配偶者により算出

図表13 5歳階級の有配偶出生率(人口千人あたり)

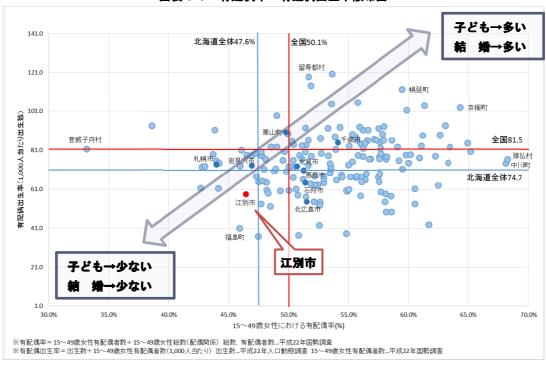
	江別市	北海道	札幌市	全 国
全体(15~49歳)	58.4	74.7	73.9	81.5
15~19歳	1000.0	747.7	619.9	820.7
20~24歳	338.4	378.8	345.0	399.2
25~29歳	235.0	226.7	221.2	248.1
30~34歳	153.5	143.6	147.3	161.8
35~39歳	50.6	60.0	65.4	68.0

	岩見沢市	千歳市	北見市	栗山町	恵庭市	石狩市	北広島市
全体(15~49歳)	73.4	85.2	72.9	90.3	70.8	64.5	54.6
15~19歳	1500.0	764.7	466.7	1000.0	1076.9	1166.7	833.3
20~24歳	428.6	393.8	402.3	370.4	449.4	374.0	383.8
25~29歳	223.8	236.5	216.0	305.3	206.1	210.6	209.5
30~34歳	141.2	140.0	131.4	171.0	120.3	110.5	118.9
35~39歳	54.9	55.2	55.0	91.5	55.0	60.8	55.6

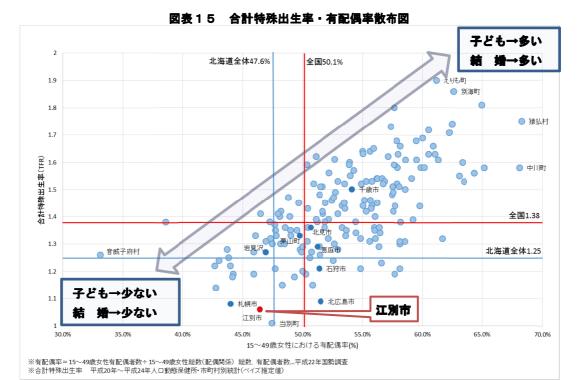
5歳階級別の有配偶出生率について、他の地方公共団体と比較すると、特に 20~24歳、35~39歳で下回っており、結果として、全体(15~49歳)でも下回っている状況にあります。

(出典) 国勢調査、人口動態保健所・市区町村別統計より作成

8 有配偶率と合計特殊出生率、有配偶出生率について

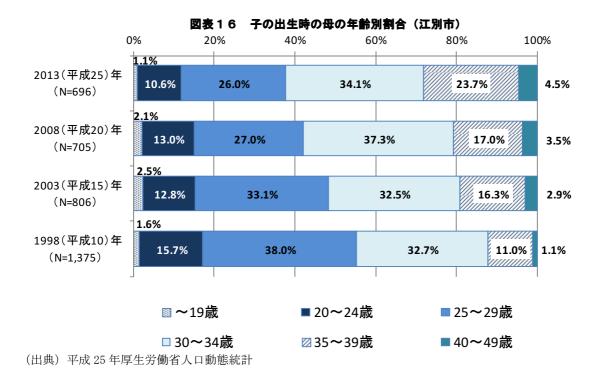


図表 1 4 有配偶率·有配偶出生率散布図



有配偶率、有配偶出生率、合計特殊出生率の関連について、【図表 1 4 】によると、江別市は有配偶率、有配偶出生率が全道の自治体と比べて低い値となっています。また、比較対象の自治体で有配偶率、有配偶出生率がともに低いのは江別市のみとなっています。次に【図表 1 5 】では有配偶率と合計特殊出生率の相関がみられ、江別市では相対的に結婚する女性が少なく、また夫婦でもうける子どもの数が少ないことが考えられます。

9 子の出生時の母の年齢別割合

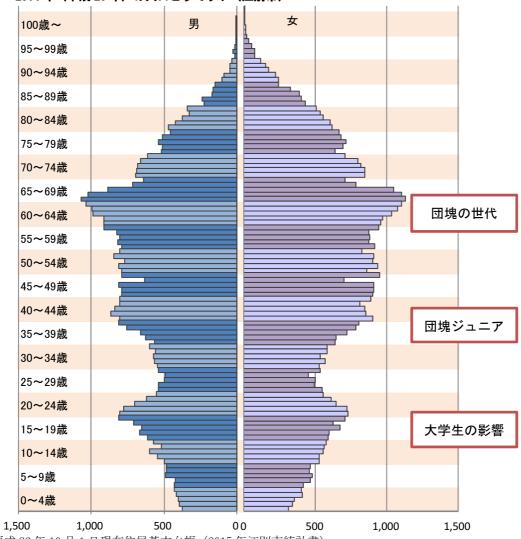


子の出生時の母の年齢別割合をみると、1998 年(平成10年)では、25~29歳の母親の割合が38.0%と最も高くなっていますが、2013年(平成25年)では、30~34歳が34.1%と最も高くなっています【図表16】。

また、35~39歳の母親の割合は、1998年(平成10年)には11.0%であったものが、2013年(平成25年)には23.7%と、年々割合が高くなり、晩産化の傾向が読み取れます。

10 人口構造の変化

図表 17 2014年 (平成 26年) の人口ピラミッド (江別市)



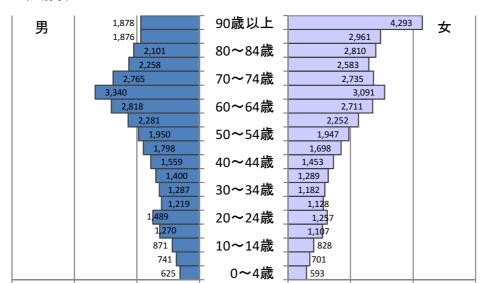
(出典) 平成 26 年 10 月 1 日現在住民基本台帳 (2015 年江別市統計書)

図表 1 8 2060 年 (平成 72 年) の人口ピラミッド (江別市)

6,000

4,000

2,000



(出典)「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)に基づき作成

0

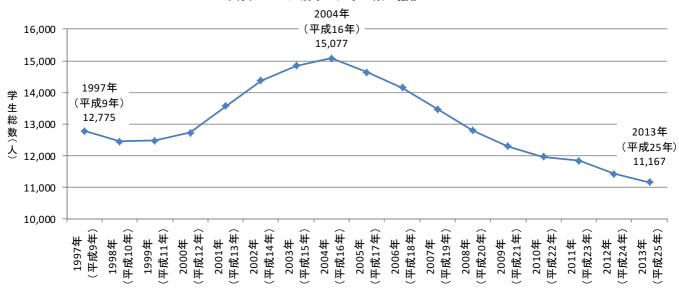
2,000

4,000

6,000

11 大学学生数の推移

図表19 江別市の大学生数の推移



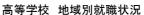
(出典) 学校基本調査

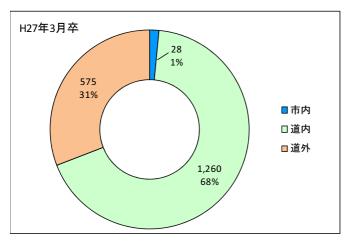
江別市は4大学1短大を有しています。大学学生数について【図表19】によると、2004年(平成16年)のピーク時には市内の大学合わせて約15,000人もの学生が在籍していましたが、2013年(平成25年)には、約11,000人と、4,000人程度減少しています。

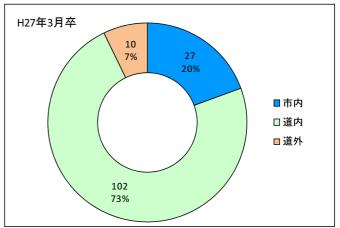
12 市内学生の地域別就職状況

図表20 江別市内の大学、高校の卒業生の地域別就職状況

大学·短期大学 地域別就職状況







年度	市内	道内	道外	計	市内比率
25/3	34	1,081	526	1,641	2.1%
26/3	28	1,129	557	1,714	1.6%
27/3	28	1,260	575	1,863	1.5%
計	90	3,470	1,658	5,218	1.7%

L	年度	市内	道内	道外	計	市内比率
	25/3	16	106	20	142	11.3%
	26/3	17	115	12	144	11.8%
Ī	27/3	27	102	10	139	19.4%
	計	60	323	42	425	14.1%

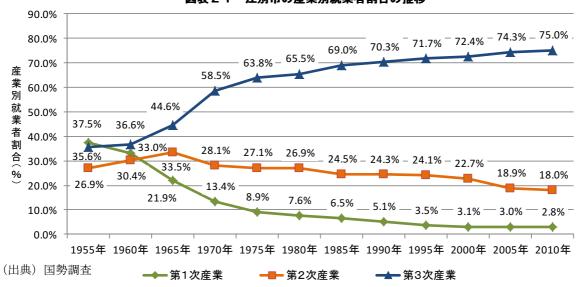
(出典) 江別市就職状況調査

【図表20】によると、市内の大学を卒業して市内の企業等に就職する割合は、平成24~26年度平均で1.7%です。また、市内の高校を卒業して市内の企業等に就職する割合は、平成24~26年度平均で14.1%です。

Ⅱ 産業について

雇用や就労

1



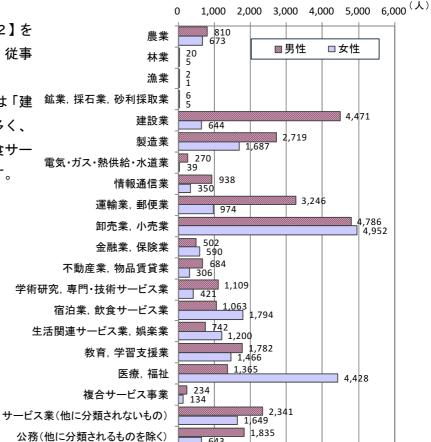
図表21 江別市の産業別就業者割合の推移

産業別就業者割合の推移について、【図表21】をみると、1955年(昭和30年)には第1次産業の割合が最も高く37.5%でしたが、徐々に割合が低下して、2010年(平成22年)には2.8%となりました。 一方で第3次産業の割合は年々高まり、2010年(平成22年)には75.0%にまでなっています。

図表22 江別市の男女別産業人口(2010(平成22)年)

男女別の産業人口について、【図表22】を みると、男女ともに「卸売業、小売業」従事 者が最も多くなっています。

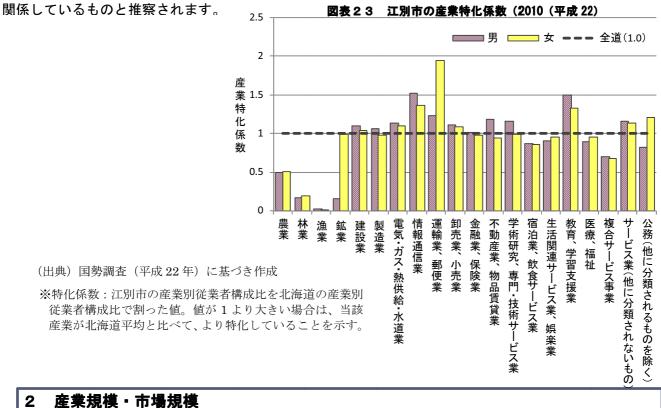
「卸売業、小売業」に次いで、男性では「建 鉱業、採石業、砂利採取業設業」「運輸業、郵便業」「製造業」が多く、 建設業 女性では「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」、「製造業」が多くなっています。



(出典) 国勢調査(平成22年)

産業特化係数について、【図表23】をみると、「情報通信業」「運輸業、郵便業」「教育、学習支援業」などで、男女ともに特化係数が高くなっています。

「教育、学習支援業」の特化係数が高いことについては、江別市内に4つの大学が集積していることが



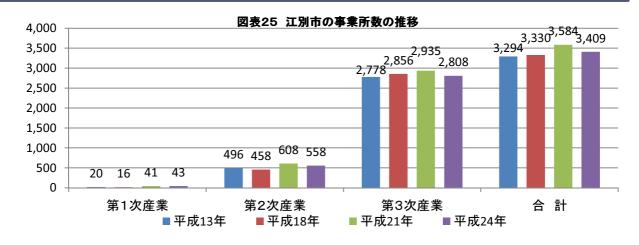
人口1人当たりの製造品出荷額は、近隣や人口規模が同程度の都市と比較すると低く、道内35市中、 第22位の金額です。

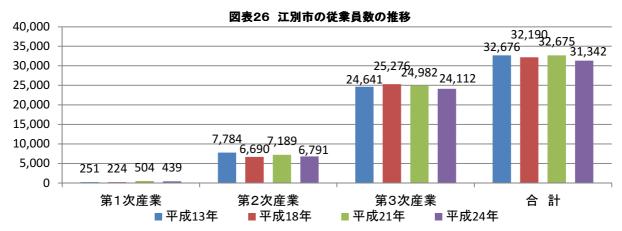
人口1人当たりの年間消費販売(小売額)は、近隣や人口規模が同程度の都市と比較すると低く、道内35市中、第33位の金額です。

人口1人当たり製造品出荷額 人口1人当たり年間商品販売額(小売額) 単位:万円 単位:万円 800 120 713 99 700 94 100 90 87 600 80 500 67 64 62 400 60 228 192 184 300 40 130 126 ₁₁₀ ₈₀ 76 71 200 20 100 0 苫小牧· 北広島· 北見市 北海道 千歳市 恵庭市 石狩市 小樽市 帯広 岩見沢市 江別 千歳市 苫小牧· 恵庭市 北見市 帯広市 北海道 石狩市 小樽市 札幌市 北広島市 岩見沢市 江別市 幌 市 市市 道内第22位 道内第33位 (出典) 平成25年工業統計 (出典) 平成24年経済センサス

図表24 産業規模・市場規模

3 事業所数・従業員数の推移

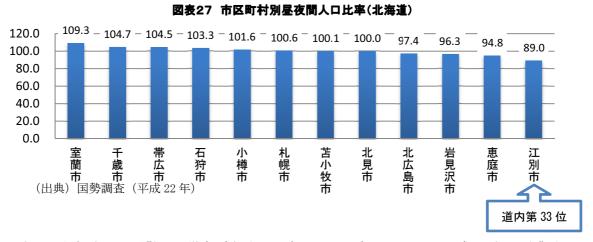




(出典) 平成 18 年以前:事業所・企業統計調査、平成 21 年以降:経済センサス調査(公務サービスを除く) 経済センサスは平成 21 年に創設した調査で、平成 18 年までの事業所・企業統計調査と調査方法が異なるため単純比較はできません

事業所数は、平成 21 年から 175 事業所の減少、従業員数は、平成 21 年から 1,333 人の減少となっています。

4 昼夜間人口比率



江別市は、札幌市への通勤・通学者が多く、昼夜間人口比率は89.0%(平成22年(従業地による人口(昼間人口)÷常住地による人口(夜間人口))で、道内35市中33位となっています。

1 実施した調査の概要

調査の種類	概要
人口減少にかかるアンケート 調査	16~49歳の市民 3,000人を対象発送数 3,000件に対し回収数 880件(回収率 29.3%)
江別市内の事業所における人 材確保に関するアンケート調 査	・江別市内の 1,000 事業所を対象・発送数 1,000 件に対し回収数 225 件(回収率 22.5%)
大学生および子育て世代市民 との意見交換会	・江別市内の 4 大学の大学生(酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学)との意見交換会の実施(参加者数 24 名)・江別市内で子育てをしている市民(乳幼児、小中学生)との意見交換会の実施(参加者数 17 名)

2 人口減少にかかるアンケート調査結果のポイント

【配偶者のいる女性】

配偶者のいる女性では、年収が 高くなるほど、今いる子どもの数 が増える傾向がみられました。

【図表28】

また、「予定子ども数」が、「理 想子ども数」より少ない理由とし

図表28 配偶者のいる女性の子どもの数(平均)

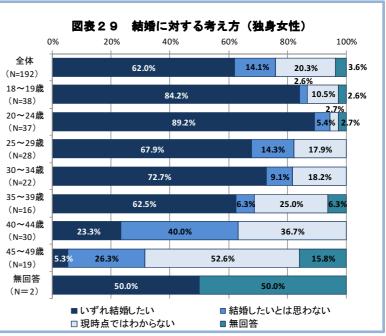
配偶者の年収	今いる子供の数	予定子ども数	理想子ども数
0~300万円台	1.43	1.87	2.30
400~600万円台	1.69	1.94	2.51
700万円台以上	1.98	2.15	2.58
全 体	1.65	1.94	2.46
全 国	1.71	2.07	2.42

(全国の値は、出生動向基本調査(平成22年)より)

て、「子育てにお金がかかりすぎるから」と回答した方の割合が高くなっています。

【独身の女性(離別・死別を含む】

独身の女性では、若い女性ほど「いずれ結婚したい」と考える割合が高くなっています。【図表29】また、若い女性ほど、将来希望する子どもの数(希望子ども数)も多いことがわかりました。





結婚したいとは思わない理由について【図表30】をみると、男性では女性と比較して「結婚後の生活を維持していくための資金が足りないから」の割合が高くなっています。

親や周囲が結婚に同意しないから

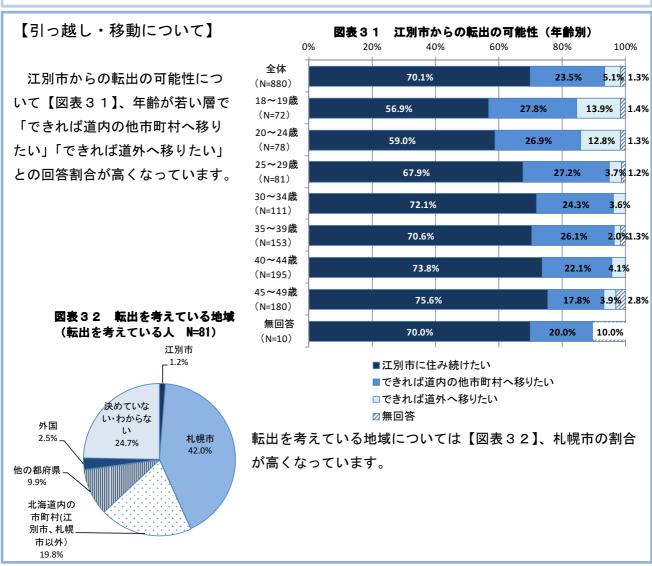
その他

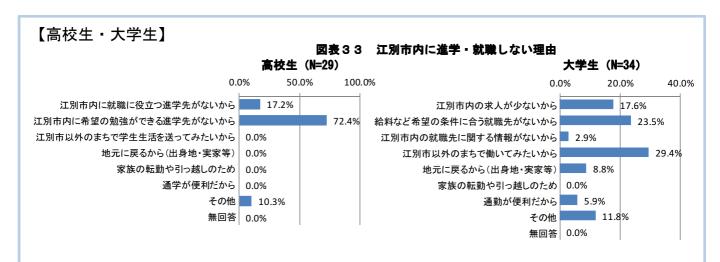
0.0%

44.4%

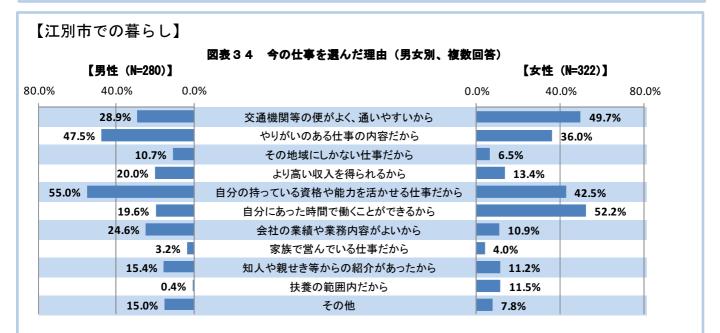
0.0%

10.5%





高校生や大学生が、江別市内に進学・就職しない理由としては、「希望の勉強ができる進学先がないから」「江別市以外のまちで働いてみたいから」「給料など希望の条件にあう就職先がないから」といった理由があげられています。



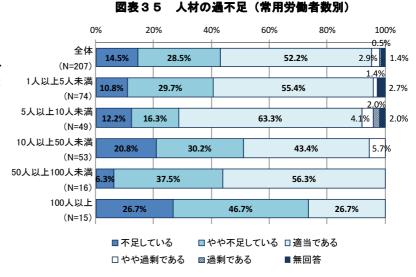
今の仕事を選んだ理由について【図表34】、男性では「自分の持っている資格や能力を活かせる仕事だから」の割合が最も高く、女性では「自分にあった時間で働くことができるから」が最も高くなっています。仕事を選ぶ理由について、男性と女性で違いがあることがわかります。

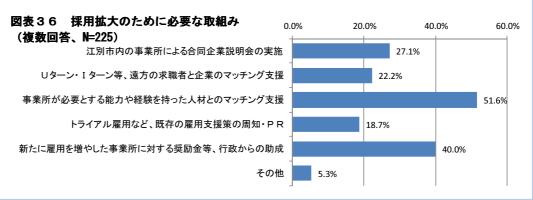
3 江別市内の事業所における人材確保に関するアンケート調査結果のポイント

【人材確保】

江別市の企業においては【図表35】、 常用労働者数が多い企業ほど人材が「不 足している」「やや不足している」の割 合が高い傾向が見られます。

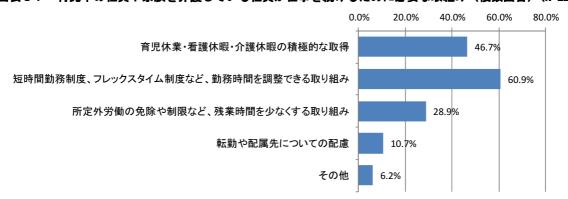
また、採用拡大のために必要な取 組みについては【図表36】、「事業所 が必要とする能力や経験を持った人 材とのマッチング支援」が最も高く なっています。





【社員が継続して働き続けるための仕組みづくり】

図表37 育児中の社員や家族を介護している社員が仕事を続けるために必要な取組み(複数回答)(N=225)



育児中の社員や家族を介護している社員が仕事を続けるために必要な取組みについて【図表37】は、「短時間勤務制度、フレックスタイム制度など、勤務時間を調整できる取り組み」の割合が高くなっています。

また、常用労働者数の少ない企業では、人員確保に課題があるため、上記のような取り組みの実践に課題があるとの意見がみられました。

4 大学生および子育て世代市民との意見交換会の開催結果のポイント

【大学生】

- ・多くの学生が、他の大学にはない学科や講座があることを理由に江別市の大学への入学を決めています。
- ・大学の最寄駅である「大麻駅」近辺以外はあまり立ち寄らず、地域と関わる機会は少ないとの意見がありました。
- ・学生の多くが江別市の企業を知らず、就職活動中にも企業の情報が得られなかったことがわかりました。
- ・地域活動への参加経験がある学生は、「地域との関わりを通じて江別市への愛着がわいた」「地域 と何かしらのつながりを持てるきっかけがあれば、地域で暮らしたいと考える人が増える」と感じ ています。
- ・結婚に対する不安について、男女ともに経済・収入面での不安をあげています。また、子育て関 してアドバイスや手助けしてくれる存在がいないことに不安を感じていることもわかりました。

【子育て世代 (乳幼児保護者)】

- ・家を建てる際の土地の安さや、家賃の安さ、JRによる近隣都市へのアクセスの良さ(特に札幌)、 子育て施策が充実していることなどを理由に、江別市での暮らしを選択していました。
- ・江別市の子育て施策への満足度は高く、子育て支援センターが毎日利用できること、2歳までのゴミ袋が無料であることなどが評価されています。
- ・0 歳児の一時預かりが少ない(時間が短い)ことについて改善の希望がありました。また、「ファミリーサポートセンター」など、一部の子育て支援施策の内容について、十分に情報が伝わっていない状況が見受けられました。
- ・参加したすべての保護者が「いずれは働きたい」と考えており、子どもの将来に備えて貯蓄をしたいという意見があげられました。また、子育てと仕事を両立するために、保育サービスの充実や、子どもの病気等に際し、職場の理解があることが必要との意見がありました。

【子育て世代(小中学生保護者)】

- ・子育てしながら働きやすい仕組みを整えることが重要であり、保育施策により力を入れて取り組むことで、若い世代が江別市に定着し、子どもを産み育てるようになるとの意見がありました。
- ・江別市の学校に対するイメージはよく、通学路も安全で、安心して通学させられるとの評価でした。少人数学級の導入などにより、先生ひとりにかかる負担を軽減し、江別市における教育の質を上げることを検討してはどうかとの意見がありました。
- ・地域住民や企業などと交流する機会を設けたり、大学と地域の交流の機会を設けることなどを通じて、若いうちから地域への愛着を醸成することで、地域定着を促すことにつながるとの意見がありました。
- ・江別市には、農業、製造業、商業など、多様な産業や企業があり、それぞれの魅力を高めることで、仕事を求めて他の地域に転出していた大学生などが地域に残る可能性があるとの意見がありました。

1 人口の将来展望に向けた江別市の課題の整理

(1)「江別で暮らす」ことの魅力を高める

①生活の利便性の向上

- 江別市では、平成 18 年に野幌駅周辺の再開発事業について都市開発計画を決定して以来、商業施設や生活利便施設の集積など、駅周辺の利便性向上を目指した取り組みを実施しています。
- 今後も駅周辺を都市活動の拠点として位置付け、必要な生活機能を集約化した利便性 の高いコンパクトなまちづくりを行うこと等により、誰もが暮らしやすいまちづくり を行うことが必要です。

②子育て世代の満足度を高める

- 子育て世代の市民は、家賃や、家を建てる際の土地の安さ、治安や環境の良さ、JR による札幌等へのアクセスの良さ、子育て支援施策が充実していることを高く評価しています。
- ・また江別市には、幼稚園から大学まで、自然が多く落ち着いた雰囲気の中で子育てが できるメリットがあります。
- 子育て世帯の転入を一層促進するため、子育て世代の暮らしの満足度を高める仕組み

③若い世代の地域定着

- 若い世代は、学びたい学科、自分のやりたい仕事などを求めて札幌や首都圏などの学校 企業を選択しています。
- ・ 普段から地域と関わり、役割を持つことなどにより、地域への愛着が生まれ「暮らしたい」「暮らし続けたい」という意識の醸成につながる可能性があります。
- ・進学・就職などにより一度地域を離れた若者が「戻ってきたい」と思えるような地域 づくりが必要です。

(4)高齢になっても暮らせるまちづくり

- 江別市では、2040 年ころまで高齢者数が増加し続け、高齢化率は 4 割を超えると推計されています。高齢者が元気に活躍する社会を構築することで、生涯現役で活躍できる活気あふれるまちづくりにつながります。
- 団塊の世代が高齢者の大半を占める時代が到来し、住まいや暮らし方、社会参加に対する考え方など、これまでとらえられていた高齢者像とは大きく変わっていくことが見込まれます。
- 高齢者が住み慣れた地域の中で役割を持ち、健康でいきいきと自立した生活を送ることができる地域づくりが必要です。

(2) 安心して働けるまちを目指す

① 能力を活かせる魅力ある仕事づくり

- ・江別市は農業や食品製造業、機械製造業、各種サービス業、大学を中心とした教育関係産業など、多様な産業を有しており、さまざまな能力や得意分野を持つ人材が活躍できる土台があります。このことは、大学生の地域定着、江別市外からの転入促進などのインセンティブとなり得ます。
- ・企業における採用拡大に必要な取組みとして、半数以上が「事業所が必要とする能力 や経験を持った人材とのマッチング支援」を求めています。多様な人材が活躍できる 仕事づくりと、それを結びつける仕組みが必要です。

②女性が子育てしながら働けるまち

- 子どもを持ちながら「働きたい」と考えている女性にとって、求職活動期間中の子どもの預かりと、就職後の職場の理解は特に重要です。
- ・また、職場への通いやすさや、自分に合った時間で働くことができることなどを理由 に、江別市内の企業で働いている・働きたいと思う女性が多くいます。
- 一方、江別市内の企業では、特に従業員数が少ない企業において、代替人員の確保の 難しさなどから、育児休業や時短勤務などの取得に課題があることがわかりました。
- 子どもを持つ親が安心して働くことができる施策の充実に加えて、子育て世代の女性 を雇用する企業側への支援施策の検討が求められています。

③江別市の大学生に選ばれる企業と仕事

- ・江別市内には第 1 次産業から第 3 次産業まで多様な産業が集積していますが、就職活動中の大学生には、江別市の企業の情報が十分に届いていないことがわかりました。
- ・江別市内の各企業が、大学生の就職先検討の選択肢となるよう、地元企業についての情報提供、インターンシップ制度の活用、企業と学生のマッチング支援などを検討することが必要です。

(3) 結婚・出産・子育ての支援

①女性が子どもを産み育てやすい仕組みづくり

- ・江別市では、合計特殊出生率が低く、また、有配偶出生率が低くなっています。晩婚化が進み、若い女性の人口が減少していることなどを背景に、1人の女性が産む子どもの数も減少していることから、出生数の減少が進んでいます。
- ・アンケート調査や意見交換会などから、経済的な理由により理想とする数の子どもを 持つことができない層がいることがうかがえます。仕事と子育てを両立するための子 育て支援施策の充実が必要です。

①若い男女の結婚の希望をかなえる仕組みづくり

- ・若いうちから結婚や出産、子育てに関する知識を得る機会を設け、同時に、将来子どもを持った時に受けられる支援策などを周知することなどにより、若者の結婚等に対する不安を解消する取組が重要です。
- 若い世代の結婚を支援するためには、地域における積極的な出会いの場づくりが必要である。

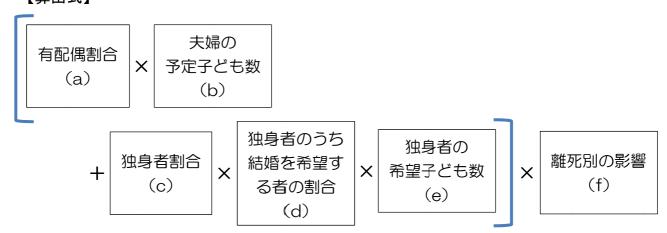
2 人口の将来展望

【江別市の希望出生率】

国の仮定に基づき、江別市における希望出生率を算出します。算出式および、基礎数値の定義は次の通りです。

算出式に基づき算出された江別市の希望出生率は、1.68となります。

【算出式】



【基礎数値の定義】

а	有配偶者割合	総務省統計局「国勢調査」(平成 22 年) における 20~34 歳の有配偶者の割合	29. 5
b	夫婦の予定子 ども数	アンケート調査(有配偶者)の夫婦の予定平均子ども数(今いる子ども+今後持つ予定の子ども数	1. 93
С	独身者割合	1 一有配偶者割合	70. 5
d	独身者のうち 結婚を希望す る者の割合	アンケート調査 (独身者) の 18~34 歳の独身者 (女性) のうち、「いずれ結婚するつもり」「現時点ではわからない」と答えた者の割合	91. 3
е	独身者の希望 子ども数	アンケート調査 (独身者) の 18~34歳の独身者 (女性)「いずれ結婚するつもり」「現時点ではわからない」と回答した人の平均子ども数	1.90
f	離死別の影響	国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」における出生中位の仮定に用いられた離死別等の影響	0. 938

【将来展望】

合計特殊出生率について、2040年(平成52年)に1.68(希望出生率)、2060年(平成62年に2.07 (人口置換水準)を達成すると仮定します。

また、社会増減については、子育て支援施策の PR や学生の地域定着への支援等により、特に子育て世代を中心とした若年層のさらなる転入促進を図り、現状で転出超過にある状態から、2020 年 (平成31年)までに転入と転出が均衡する状態を目指します。

その結果、2060年時点で社人研準拠推計と比較して15,309人増加するものと見込まれます。

